



▲ アトリエでの1枚。整然と並ぶ画材に  
几帳面な性格が伺えます。

●参考文献 木村拓也 (2019)「燃える魂の画家・横山操」『青龍社創立九十周年特別展 龍子と同時代の画家たち』大田区文化振興協会 93-95頁 / 横山秀樹 (2008)「日本画壇の風雲児 横山操の生涯」『花美術館』vol.5 株式会社花美術館 4-35頁 / 横山秀樹 (2020)「横山操の知られざる顔」『生誕100年記念 日本画家・横山操—その画業と知られざる顔』富山県水墨美術館、新潟市新津美術館、アートインプレッション 6-19頁  
●写真は取材過程で関係者より提供。掲載関係者でご連絡のつかなかった方がおります。関係者の方は、お手数ですが地域振興課広報聴係までご連絡ください。

約20年という「画家人生」としては決して長くはない年月の中で、匠の画業を残した操さん。亡くなって約50年経つ今も、日本画の世界に影響を与え続けています。

若いころから確かな実力を持ち、才能に溢れていた一方で、従軍・抑留や青龍社との軋轢、病氣など、画家人生を阻もうとするものはたくさんありました。自らを奮い立たせて乗り越えてきました。

「熱情と奮激、これが俺の人生だ」ある意味では社会に振り回されてしまった不遇の生涯でありながら、それを制作の糧とし、情熱を持って駆け抜けた彼の生き様は、コロナ禍に苦しむ今の私たちに重なり、これからの生活のヒントを与えてくれるかもしれません。

## 「横山操の作品は残ります。 本当にすごい絵は時代を超えて残るんです」

昭和48年に操さんが亡くなってから、47年の月日が過ぎました。残された作品たちの凄さはどこにあるのでしょうか。平成21年に操さんの初期作品の鑑定も行った、美術評論家の横山秀樹さんにお話を伺いました。



よこやま ひでき  
**横山 秀樹さん**  
(前新潟市新津美術館館長、美術評論家)

●時代を超えて残る  
——日本画に取り上げられないようなものにフォーカスしていた操さん。当時から評価が高かったのでしょうか？

「評価」の定義はなかなか難しいですね。評論家と一般人が良いと言いつ絵は違います。青龍社の人たちと龍子でも意見は異なりました。

でも斬新で新しい日本画のスタイルであったのは間違いありません。

操の凄いところは、今彼の作品を見てもその価値が分かることです。作品に古さを感じません。50年以上前に描かれたものでも現代に通用しています。これをあの時代に描

いたというのは相当なものですね。操の作品は残ります。本当にすごい絵は時代を超えて残るんです。

——残る、とは？

例えば、尾形光琳の『紅白梅図屏風』を見た時に「ああ、すごいなあ」と思いますよね。あれは、300年前に描かれたものですが、今もなお、私たちの精神を揺さぶるものがあるわけです。それが絵が残る」ということ。そして、操の絵もそうやっていく可能性を秘めているんです。

操が亡くなってから50年近く経ち、横山操の絵を知らない人が増えていますが、それは口頭見る機会がないからであって、絵自体が悪くて残らないのとは話が違います。

そういう意味では、戦後の作家の中でこれからも影響力をもち続ける一人ですね。

——確かに、その画業に比べて知名度は低く感じます。

没後70年までは著作権で保護されます。そのため、著作

権料がネックになり、亡くなった近代の作家の紹介をするのはすごく大変なんです。70年経てばその負担もなくなりますが、その間に消えていってしまう作家もたくさんいます。歯がゆいですが、著作権が作家を守っているのも事実ですので、難しいところですが……。

操の企画展も随分久しぶりです。ぜひ横山操の作品の魅力に触れ、こういう作家がいたのだと、多くの人たちに知ってもらいたいですね。

●時代を先取っていた証明  
——燕市産業史料館では、初期の作品を中心に展示しますね。

これまで、操の初期の作品はすでに存在しないものと思われていました。ですので、こんなにまとまって、しかも画学校時代のものが出てきたというのは



▲ 鑑定時の様子。平成21年撮影。

でも実際、当時これらの作品が大家に受け入れられるのは難しかったと思いますね。龍子だから彼の才能を見抜けたけれど、他の人だったら戦後まではおそらく無理だったのではないのでしょうか。そういった先進性を示す意味でも、貴重な資料であると思います。

衝撃でした。戦後の代表作はあらかた美術館に入りましたが、戦前に書かれたものは本当に燕市にしかありません。今までは戦後の作品を見て横山操について論じてきましたが、これからはここから話をしていくことになる。これはものすごく大きな発見なんですよ。

### 横山操 生誕100周年記念展覧会 「はじまりの物語。時代を見つめた眼差し。」 12月4日(金)～1月11日(祝)

- 会場 燕市産業史料館 ●開館時間 9:00～16:30
- 入館料 大人400円、小・中学生・高校生100円 ※燕市民は期間中無料
- 休館日 月曜日(1月11日(祝)は開館)、12月28日(月)～1月4日(月)
- 問合せ 社会教育課 文化振興係 ☎0256・63・7002